

YAMATO Nature Circle



2026年8月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.90

——絵と文 群馬直美——

足元のちいさな花《マンネングサ》

5月半ばのビオトープ園で、ちいさな黄色い花と出会った。

地面に倒れるように15cmくらい伸びた茎に、緑色の肉厚なぷくぷくしたかわいい葉をつけている。

茎の先端は2～4本に分かれ、これまたぷくぷくした黄色い花を3～5個ずつつけている。

1円玉よりもちいさい、5円玉の穴くらいの大きさのとてもちいさな花。

顕微鏡モードカメラで撮影してみると……うわぁ、すごい！

そこには、壮大なスケールの宇宙が広がっていた。

宇宙が奏でる音楽があるなら、今、わたしの耳に響いている。

27倍に拡大して描く。——もっとも感動したのは、

中央に直立する2本のオシベの佇まい。

オシベの先端は人の顔のような表情となり、凛として向き合っている。

右側は女神さまのような抱擁力でうつむき、

左側は救いを求めるかのように見上げている。

花の真ん中には5つに分かれぷくぷくしたメシベ。

それを取り囲む10本のオシベ柄のふくよかさが、なんと凛々しいことか！

左下の枯れた花びらと朽ちたオシベが微かな光を浴びながら、

やさしく闇の中に消えていく。

白い粒々が至るところで光の粒子のように輝いている……。

足元に咲くちいさな花にみつけた極上の救いの姿に、驚き感動して描いた。



《表紙の絵》マンネングサの花 ×27

「聴こえる？ 見える？

ちいさな花の奏でる音色」

・ヤマトビオトープ園にて2026年5月18日採集
(作品の完成日は、2026年6月30日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目640g)
/テンペラ・油絵の具・墨・スタンプパッド(黒・銀)

・size:375mm×280mm

©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。2006年より世田谷美術館「美術大学」で葉画講師として身近な葉の美しさ、素晴らしさを伝え続けている。2019年、『下仁田ネギの一生』の組み作品で、英国王立園芸協会主催植物画展で金賞及び最高賞受賞。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』『Dancing Vegetables 踊る野菜』他。東京都立川市在住。

<https://www.wood.jp/konoha/>